

福岡県立山門高等学校



# 同窓会だより

2012.3.1

第15号

山門高等学校  
創立99周年

## OBを迎え記念講演

「輝きの時

—未来を夢見て自己実現の構想を練る—



【講師】 **牛島 倫子氏**

(昭和33年卒)

昨年10月29日、山門高校体育館にて創立99周年記念行事として、牛島倫子氏をお迎えし「輝きの時—未来を夢見て自己実現の構想を練る—」と題し講演会が実施されました。

講演では、教授の助手を勤めた大学時代や、その後の非常勤講師をしながらの十年間のゴーストライター生活など、厳しい生活の中、父の言葉を

信念にがんばった事、また、高校時代に工夫を凝らした授業をする先生方からの教え（男女平等の精神、自主性・積極性を重んじる）が自分を支えた事など、非常に興味深いお話をされ、自分を見極めながら高い目標を持ち、理想を追い求める事が大事だと語られました。

最後に、生徒からの「現代の若者に足りないところは？」との質問には、これからの君たちに足りないところなどない。自分がどう生きるかであり、足りるように自分で努力をしなさい、と熱いエールを贈られました。

## 自信と誇り…同窓会



山門高校同窓会  
会長  
板橋 元昭

昨年は東日本大震災をはじめ未曾有の天変地異が各地でおきました。民主化を求める国民は数ヶ国で独裁政権を倒しました。財政が窮乏している欧州の国々は国際金融不安を引き起こしました。厳しい世界情勢ではありましたが同窓生の皆様には遅く元気にご活躍いただいていることと存じます。

さて母校の創立百周年記念式典は今年十一月十日(土)に行われます。学校父母教師会同窓会で組織する創立百周年記念事業実行委員会は今その準備の真っ只中です。

記念事業の柱は同窓会が取組むスポーツ文化活動支援基金創設を目指し一億二千万円を目標額とする募金活動であり、二万二千余名を擁する同窓会の心意気を以て会員の皆様に理解と協力をお願いするものであります。

報を発信することとしました。同窓会の御案内の「歩み」の頁には今日までの歴史を、「総会」「支部」の頁には活動状況を、「会報」の頁には同窓会だよりの全記事を、「学校だより」の頁には現在の学校の姿を掲載しています。是非見ていただき同窓生の皆様が母校を身近なものとして親しみ、身心を鼓舞し、自信と誇りを以て日々の生活を送っていただく糧になればと願うところです。

現在福岡県の県立高校は九五校です。藩校の歴史を持つ学校、明治期の女学校を前身とする学校、生徒数の増加により四半世紀前に新設された学校、生徒数の減少により最近統廃合された学校等があります。県立高校は施設整備も教職員の配置も全学校が均等であることが求められ、独自の学校経営を行う私立高校と大きな違いがあります。それでも元気に活躍する県立高校があります。これ等は同窓会やOB会がしっかりと支援している学校です。

山門高校の同窓生の中には国内外に於いて顕著な活躍を高い評価を受けている人達がいまいます。政治の分野では元運輸大臣で衆議院議員の古賀誠さん、日本の金融政策分野では日本銀行政策委員会審議委員亀崎英敏さんが知られていますが、別に産業経済の分野では東証一部上場有力企業の社長である昭和四

十六年卒の同窓生、自力で起業し株式市場に上場はしていないが、その業界にあつては日本一の売上高を有し海外進出を手掛けている企業のオーナー経営者である昭和三十八年卒の同窓生等があります。今流行の榮譽賞を同窓会が贈つても良い方々です。しかしマスコミ等の話題になり易いスポーツ文化活動にはこれらの方々に匹敵する同窓生は未だ出ておりません。私は母校創立百周年を機にスポーツ文化活動支援基金を創設し、活用し、その分野でも活躍する同窓生が輩出していく因になればと願っています。そして山門高校に対する地域の期待が膨らみ、若い有為の人材が地元の山門高校を学び舎として選ぶことを望みたいと思ひます。そのことを同時に同窓生は勿論のこと在校生にも自信と誇りを与える力となり人口減少が続く次なる百年を山門高校がたくましく発展してゆく力になると信じるからです。

## 「時代」



山門高校  
校長  
井上 正明

昭和四十七年三月に山門高校を卒業をした青年は、勉学の末に東京の大学に進学をした。六

畳一間の間借り部屋の生活を始め。高校二年生の修学旅行で来た東京、東京タワーの赤色と高さは、高校の修学旅行の当時の印象のままだった。

東京の世田谷五丁目下宿には、簡易な机とスチール製の本棚と冷蔵庫が生活用具が鎮座していた。昭和四十年代後半の大学は、大学紛争まっさかりだった。校門の横には「〇〇反対」とペンキで大きな文字が書かれていた。校内には赤色や白色、中には黒色のヘルメットをかぶり、口元にはタオルを当てて、マイク片手に「〇〇反対」と声を荒げる学生がいた。学園祭の準備をしているとヘルメットをかぶり鉄パイプを握つた学生が準備しているテントや出店のものを鉄パイプで壊したりした。

学園祭は中止となり一週間、大学はロックアウトの状態になった。また、前・後期試験の時期になり、講義室で配布された問題用紙を見ていると、いきなりヘルメットをかぶり鉄パイプをもつた数人の学生が問題用紙を引き破いて、結果的には、試験は自宅待機の形で大学から下宿に送られた分厚い封筒に入ったレポート用紙で対応をしたりした。

喧嘩と争乱、反対と破壊、罵声と怒号、それらが日常の大学生活の中にあつた。しかし、人とはおもしろいもので、その中に引き込まれるものとノンポリ

として日常の平穏を保とうとするものがある。ノンポリの意見は、「そんな暇はない」というのが正解であった。その両方は共に「時代」を生きていることになる。その「時代」がどうであったかは、時間が決める、つまり、歴史が証明することになる。

体制と反体制の二分した思考で世の中を見よう、世の中を解説しようという安直な思考からは何も生まれまいということ。「時代」が教えてくれた。「そんな暇はない」という生き方をした彼は、その学生時代に「人」に出会い「本」に出会い、「音楽」に出会った。

東京の「人」はいろいろと教えてくれた。「本」は生き方と考え方を教えてくれた。「音楽」はきついつい苦しいとき心を楽しませてくれた。「人」「本」「音楽」の三つが大学生生活にあつたから、彼は学生運動に対して「そんな暇はない」という正解を出し続けて「時代」を生きてきた。その考え方と生き方はおおよそ正しかったよ、と気がする。

自分が生きていく今という「時代」にどのように向き合っているか、その「時代」に自分なりの生き方をおつつけいるか、これを結びつける考え方と生き方になることは間違いない。山門高校の三年間は、「そんな暇はない」と教えてくれた。

## 同窓会総会を終えて

前年度実行委員長 平成元年卒 河野 一仁

昨年日本は、三月十一日に未曾有の大震災に襲われました。この大震災の後、同窓会総会を見合わせようかと、議論も行われましたが、私たち山門高校同窓会は、全国に拡がっている卒業生にエールを送るという大切な使命もあり「深い絆で、共に乗り越えて行こう」と心に誓い、元気に開催させていただきました。

おかげさまで、五月三日の同窓会総会におきましては、沢山の皆様のご参加と、ご協力のもと盛況裡に終えることが出来ました。これもひとえに、学校施設を快く提供していただいた井上校長先生をはじめ関係職員の先生方、山門高校同窓会、板橋会長を中心とした関係役員の皆様方、そして総会開催にご協力・ご尽力いただいた、すべての皆様のおかげと感謝致しています。

このように盛大な同窓会総会を、母校である山門高校で開催できるのは、今年度創立百周年という長い歴史と伝統があるからこそ、実行委員一同、肌で感じ、改めて「山門高校」への「愛と誇り」を抱くことが出来ました。

ここに平成元年卒の実行委員を代表いたしまして、心より感謝御礼申し上げます。

さて、今回の同窓会テーマは、「絆・縁は水久に」のもと開催させていただきました。偶然にも

大震災以降、日本中で「絆」という言葉が全国に拡がった一年でもありました。

第一部の総会におきましては、坂田議長のもと、役員の皆様のご協力ももちまして、創立百周年記念事業計画案等の議案が滞りなく審議されました。

第二部の記念講演会では、「佐賀のがばいばあちゃんシリーズ」の著者の「島田 洋七氏」をお迎えして、「洋七流 縁から絆へ」と題してご講演いただきました。著書「がばいばあちゃん」でおなじみの洋七さんと、おばあさまとの心温まるエピソードからは、忘れていた家族の絆や本当に大切なものは何かなど、笑いを交えながらのご講演は、会場全体を笑顔で包み込んでいただきました。特に印象に残った、がばいばあちゃんの言葉で、「苦勞は幸せになるための準備体操や〜」「幸せはお金が決めるものじゃない。自分自身の心のあり方で決まるんだ。」など、洋七さんのこれまでの波瀾万丈な人生を通して、いい時もどんだ底の時期もすべてが学びでもあると感じました。

芸能界という一見掛け離れた世界でのお話かと思いがちでしたが、日本の大震災以降の困難な状況をいかに乗り越えるか、人と人の絆、ご縁の大切さなど大きなヒントとして、ご来場の多くの皆さんが共感を重ねながら聴かれていたのではないかと思います。

第三部の懇親会におきましては、「沖の石太鼓」の力強い演奏からはじまりました。そして南里先生

からの乾杯の後には、各学年同士はもちろん、学年の枠を超えた同窓生の交流が始まり、笑顔が咲き誇る空間となりました。

思い起こせば、前年度の坂田実行委員長からタスキを受け継いだ時は、わずかに数名からの実行委員会スタートでした。この伝統行事の同窓会総会を自分たちの年代でも成功できるだろうかと不安を抱えたことも何度もありましたが、そのたびに、先輩方からのアドバイスを受け、実行委員会を重ねていくうちに、私たちの結束「絆」も深まっていき、無事総会当日を迎えることが出来ました。

当日は、百十名を超える同級生が母校に集まり、みんな一致団結し、ひとつの事業をやり遂げることができたことは、これからの一生の宝となりました。

この素晴らしい経験と伝統を後輩たちにも引き継いでいきたいと思っております。

最後になりましたが、同窓会総会と山門高校の更なる発展と飛躍を祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



## シリーズ 名物先生

その6



赤星保之先生

今回で六回目となりますシリーズ名物先生では、私たち平成元年卒業生がお世話になった先生方から赤星保之先生（英語）にお話を伺いました。

現在は県立三池工業高等学校で普通の教員として活躍されております。

### ◎山門高校についての思い出は？

私は昭和六十年に大学を出てすぐに新任として山門高校に赴任し、教員としてのキャリアをこの山門高校から始めさせていただきました。柳川・瀬高という風土のゆつたり感と、キラキラした高校生達の純粋な目に出会い、毎日毎日が新鮮で発見の連続で、失敗も多かったですが教員としての仕事を一つずつまわりの先生方や生徒達から教えてもらったような気がします。

また、山門高校に赴任することになって今の妻とも出会うことができ、二重の意味でも私の出発の場所となりました。

### ◎生徒の進路実現に必要なことは？

普通校の生徒であれば大学入試に合格することが大前提で、とにかく入学するための勉強がメインの日々を送っていると思います。実は大学は入ったあとが大切で、何が目的で大学に入ったのかが明確である必要がありませぬ。平成二十三年十月一日現在で、来春卒業予定の大学

生の就職内定率が五十九・五%と発表がありました。大卒の六割しか就職が決まっていないう現状の理由がそこにあります。大学時代に何をしてきたかが問われる就職で、就活を頑張ったこと以外に頑張ったことがない大学生は企業にとって採用するメリットは何もありません。大学進学のために君は何を見据えているか！これが真の進路実現に必要なことだと思います。

### ◎在校生の皆さんにメッセージ

高校生の君たちの持つ能力と可能性は君たちが思っている以上にすごいものがあります。私が高校の時、何気なく見たNHKの英語会話の番組がきっかけで私はいま高校教師をしています。私は山門高校で英語を教えた生徒が英語の教員になっていたり、外国に留学したり、外国で働いていたりします。自分が信じたことをすつと信じ続けることができるなら、たとえ遠回りでも信じた場所に向かえばたどり着くものだと思います。ほかの誰も自分のことを信じてくれないかもしれないけど、自分くらいは自分のことを信じてあげても損はしませんよ。

◎たいへん興味深いお話を伺うことができて、さすが私たちのあこがれの赤星先生だなあと感激しました。本当にありがとうございました。

取材・平田哲也（元年卒）

# 平成二十四年度 同窓会総会に向けて テーマ「伝統く固い絆で一つに」



実行委員長  
平成二年卒  
松尾 恵次

日増しに暖かくなってまいりました。同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成二十四年度の同窓会総会は私たち平成二年卒の卒業生が担当させていただく事となりました。

伝統ある山門高校同窓会総会の実行委員長を務めさせていただくという事で、巨大な重圧を感じつつも、大変光栄に思っているところでもあります。

昨年、先輩からタスキを引き継ぎ、実行委員会を立ち上げたものの、右往左往して全く前に進みませんでした。そんな時、諸先輩方からのご指導と励ましの言葉をたくさんいただき、同級生みんなで知恵を出し合い、ようやく形になってきました。このように縦の関係と横の関係がうまく機能する所が、山門高校の伝統であると思っております。大変ありがたく思っているところでもあります。

まず、私達は何回も集まり、同窓会総会の核である「テーマ」と「講師」について話し合いました。その結果、テーマは「伝統く固い絆で一つに」に決定しました。今年、山門高校はめでたく百周年を迎える事となりました。この

少子化の中、母校が次の百年を迎える為には、魅力ある高校であり続ける必要があります。そのためにも、先生方、在校生、卒業生、皆が固い絆で一つになる事が大切だと思います。そして、山門から元氣を発信していければ、素晴らしいと思っております。

「戦争を知らない子どもたち」という歌がヒットした一九七一年、日本が高度成長に浮かれていた、そんな時に僕達は産まれてきました。今の在校生達は、戦争はもちろん、高度成長もバブルも知りません。でも、話を聞いたり映像を見たり、勉強する事はできます。

世代間のギャップを嘆くのではなく、伝えていく事が大切だと思います。山門高校が有する慣習、形式、価値観もまた、大切に次の世代に繋いでいけたら、大切にしたいですね。もちろん取捨選択を繰り返しながらですが、それが伝統。それが山門の強さになると信じています。

僕達は、社会人になってからは、ほとんど成長のない時代を生きて

きました。そんな時代に生きていくからこそ、日常の小さな幸せをとでも愛おしく感じたりもします。平和や平凡な日常のありがたみを強く感じる出来事が、去年ありました。東北地方の大震災です。戦後の焼け野原を思わせる津波の爪痕、何十年も被爆に怯え続けなければならぬ原発事故。あの映像を見て、何もない日々への幸せを感じると共に、何か自分にも出来る事はないかと皆さん思われた事でしょう。今まさに、復興に向けて日本中が「固い絆で一つに」ならなければなりません。そう思います。

次に、講師については、郷土のスター「IKKOさん」をお招きする事になりました。TVで見ない日はない売れっ子芸能人で、「美のカリスマ」と呼ばれる美容家でもあります。講演のテーマは「絆」です。今から大変楽しみにしています。

最後にになりましたが、同窓会総会開催準備にあたり、快く施設等を開放していただきました山門高校と、関係各位の皆様方から感謝を申し上げ、益々の皆様のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げます。



▲ IKKO 氏

## 進路部より

進路指導主事 中村 辰男

同窓会の皆様には、日頃からご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。

進路指導部では、学校の目標である「第一希望での進路実現」を達成するためいろいろな手立てを講じています。その一環として、本校昭和四十四年卒業のタカ食品(株)社長の大家氏を招き「地元企業魅力発見授業」を実施しました。生徒たちは先輩の熱い話に感動し「やる気」をもらい、充実した学校生活を過ごしています。また、研修部とタイアップして効果的に職員研修会を実施し、授業力、進路指導力の向上に努めています。そして、生徒一人ひとりが希望を叶えるために教師が「わかる」授業の創造を図りながら、切磋琢磨する集団作りに尽力しているところです。

一月二十日現在の進路状況をお知らせします。推薦入試において長崎大学・佐賀大学・福岡教育大学・関西大学・同志社大学各一名、西南大学二名等、一九名の合格を出しています。公務員では、県職一名、福岡県警一名が最終合格しております。防衛大学校は一三名が一次合格をしています。

## 福岡山門会

### 総会のご案内

〔名称〕

福岡山門会総会・懇親会

〔日時〕

平成二十四年四月十四日(土)

午後一時受付 午後二時半開始

〔場所〕

福岡国際ホール 博多大丸16階

〒800-9271 八八五五

〔会費〕

男性七千円 女性六千円

夫婦一万円

〔問い合わせ先〕

福岡山門会 事務局

〒800-9271 八八五五

福岡市南区 樋口

## 平成23年度卒業生 (平成24年3月卒業)

### 同窓会クラス役員

	男子	女子
1組	北島 祐真	竹又 仁美
2組	久富 真穂	武藤 麗央奈
3組	関 太賀	井上 鈴菜
4組	金子 晋也	藤木 千春
5組	池田 太郎	松岡 未樹

(○は学年代表)



平成16年度制定の  
山門高校エンブレム  
清水山のさき山頂がモチーフ

編集室より  
本年の会報15号は、平成元年卒の発行委員会が編集いたしました。快く寄稿していただきました感謝申し上げます。